

# ムカデとヤスデ

## 1. ムカデ



少年時代にこんな思い出があります。遊び疲れて家に帰るなり、畳の上に仰向けになり、そのままうとうとしていました。暫くたって、何処からともなく「パラパラパラ・・・」という畳の上を歩く何かの音が聞こえてきます。何だろうと横を向いた途端、黒い紐のようなものが目の前を横切りました。反射的に飛び起き、そばにあったマンガ本でムカデを叩き潰してしまいました。一瞬の出来事でしたが今でも鮮明に覚えています。

このムカデは、複眼はなく、単眼が片側に4個ずつ計8個ありますが、ものが見えるような代物ではありません。獲物を探し回るには、全く頼りにならなりません。彼らの狩の方法は、待ち伏せ専門です。

何も知らずに歩いてきた虫がムカデに触れた瞬間、毒牙で噛みつき、強い毒で獲物を動けなくして、細かく噛み砕いて食べてしまいます。

確かに気持ちの悪い虫ですが、社会人になってからもこの虫との縁は切れず、仕事先の愛媛県西条市の旅館で布団の中に入ってきたムカデに刺されたことがあります。最近ではムカデそのものが少なくなりましたが、昔は雨が降り続いたりすると、住処を追われたムカデ達が、よく家の中に入り込んでくることが多かったように思います。

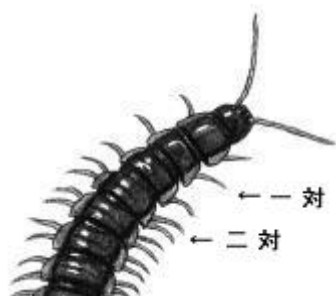
彼らの餌は、クモ、ゴキブリ、コオロギなど何でも食べ、時にはカエルさえ襲うことがあるそうです。

ムカデに刺された場合、激しい痛みを伴い、患部は腫れ上がり、刺された人の中には悪寒などで倒れてしまう者もいます。毒といっても、スズメバチの場合のように「ショック死」したりするようなことはありませんが、刺された部分の毒の成分を少しでも弱めるためには、抗ヒスタミン軟膏を患部に塗るのが良いようです。先の、旅館で刺された時も「これをどうぞ」と旅館の女将に抗ヒスタミン軟膏をわたされました。今思うと、抗ヒスタミン軟膏を準備していたということは、この旅館では他にも刺された人がいたということでしょうか。

ところで、ムカデは百足とも書きますが、勿論、足が丁度100本というわ

けではありません。一番少ないもので28本、逆に最多記録は354本で、100本以上のムカデは少なくないそうです。今年の夏に見つけたムカデは42本足でした。ところが、ムカデの仲間ですコロペンドラ・ギガンテアといって、体長20cm以上（スゴイ！）にもなる巨大なものもいるようです。

ムカデは我が家でも夏になると時々見かけますが、体節ごとに1対の足があるのは皆さんご存知ですね。



## 2. ヤスデ

ムカデは多足類の中の唇脚類に属しますが、次に述べるヤスデは倍脚類に属する生き物です。

皆さん、ヤスデをしっかりと観察したことがありますか。ヤスデを見ていて、いつも疑問に思っていることがあります。この虫を見るたびに、その疑問が頭をも

たげて来ます。

疑問に思っているのは、このヤスデの足の数です。足の数は70本ぐらいですが、頭部から3節くらいまではムカデと同じように各節に1対の足がありますが、それより後の節にあるのは全て2対の足になります。つまり、1つの節に4本の足があるのです。

これを見ると、「昆虫の中にも6本足でなく、12本足の昆虫が一種類ぐらいいてもよさそうなのになあ。」とつい思ってしまう。さらに、生物の本を開いてみると、ヤスデは孵化した直後は昆虫と同じように3対の足、すなわち、6本の足だそうですが、脱皮するたびに、節と脚の数が増えていくという増節変態と呼ばれています。

足が多い割には、スムーズに足を動かしており、足の運びは、見事なもので、波でいうと、物理の実験の縦波のサインカーブにそっくりです。

ヤスデも足の多い動物ですが、千本足 (Millipede) という意味の英語名が付けられているように足の数はムカデの比ではなく、最多記録は710本だそうです。

このヤスデ、昆虫のほとんど住んでいない杉林でも沢山見かけます。繁殖期が秋なので、腐葉土等を掘ると、白い体の幼虫が沢山見つかりますよ。腐葉土、朽木などを食べるということは、ミミズと同じように、それらを良質の土に変える重要な役割を果たしているわけです。

